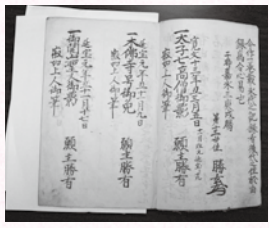


浄土真宗本願寺派の正楽寺

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)



▲『累代記録不動細目集』
(正楽寺蔵)



▲本堂に掛かる「正楽寺」額
(明治42年)



▲正楽寺本堂内の
阿弥陀如来像 (中央)



▲正楽寺
(新堂1丁目、昭和46年移転)

西野々村に前身道場が存在か
船場・南堀江・今宮から新堂へ

昭和十三年(一九三八)、現新堂一丁目の松原中学校と国道三〇九号線にはさまれた桜並木の地に浄土真宗本願寺派の正楽寺が土地を所有しました(歴史ウォーク²³⁷)。

当時は、一面の田畑が広がっていましたが、正楽寺はこの時、大阪市西成区今宮町の三日路に所在していました。新堂に土地を持ったことから、寺では墓石の一部を移し、墓地を管理する小屋を建てたのでした。

正楽寺は、江戸時代前半の延宝元年(一六七三)、西本願寺を本山として、船場、今の大阪市中央区北浜にあたる東成郡生玉庄内大坂堀木町に開創されました。初代住職は勝有で、現住職の十九世安満勝弘さんに至るまで、代々、安満家が継職しています。安満家からは南北朝時代、後醍醐天皇の南朝方に味方した了願のような法師武者も出ました。勝有も西本願寺十三世の良如に仕えていたと伝わっています。

享保四年(一七一四)になって、寺は堀木町近くの大坂玉手町に移りました。三世勝真の時です。その後、幕末の安政二年(一八五五)、十三世勝玄は今の大阪市西区南堀江の道頓堀川北側の高台の地に寺を移転させたのでした。現在の堀江中学校の場所です。

正楽寺は山号を高台山と称しますが、これは地名の高台から付けられたものです。

明治四十一年(一九〇八)、十七世勝憲の時には、寺地が旧高台小学校用地となったことから、今宮の三日路に三たび移り、現在の新堂には昭和四十六年(一九七二)に移転してきたのです。移転に伴い、本堂や庫裏は新築されましたが本堂に掛かる寺額「正楽寺」は、堀江の檀家であった西区新町通り二丁目の加屋伊助が明治四十二年に奉納したものです。境内墓地には、堀江や今宮時代の墓石も見られます。

正楽寺には、嘉永三年(一八五〇)、勝玄がまとめた『累代記録不動細目集』という寺誌が蔵されています。

同誌によると、開創時の延宝元年十一月九日に、当時の西本願寺十四世寂如によって、現在、本堂に祀られている本尊の阿弥陀如来像が与えられ、同時に正楽寺の寺号も許されています。「木佛寺号御免」「寂如上人御筆」とあります。同日、十三世良如の御影も下され、同月十七日には浄土真宗開祖の親鸞聖人の御影が与えられています。寂如は、これより八カ月前の寛文十三年(一六七三)三月五日に、聖徳太子など「太子七高僧御影」も下しています。

ところで、同誌の中に、「当寺略景図写」と書かれた一項があり、興味深い文章が見られます。そこには、正楽寺

の前身と推察される道場が本市西野々に存在していたかのような記述があるのです。冒頭に「天正年中、河内丹波郡西野村建立之因縁」と書き出し、開基は道善と見えます。四代住職まで西野々村に住しましたが、のち慶長七年(一六〇二)に大坂堀木町に移ったと記されています。五代・六代住職と続き、その六代勝雲の次男が正楽寺開基の勝有であるとしています。勝雲長男の勝應、すなわち勝有の兄は、同じ堀木町にあった本願寺派の尊光寺の住職となっており、弟の勝有が道場をまかされ、延宝元年に正楽寺の寺号や本尊の阿弥陀如来像を西本願寺から下され、道場から寺観を整えていったのです。

現在、西野々一丁目に東本願寺を本山とする真宗大谷派の一頼山西法寺があります(歴史ウォーク¹⁰⁵)。寛文九年(一六六九)十二月に西野々村惣道場として創建されたと伝え、当初は本願寺派でした。すでに、西野々村には戦国時代の天正年中(一五七三〜九一)に正楽寺の前身道場があり、同道場が慶長七年に大坂へ移った後、西法寺前身道場が同じ西本願寺を本山として、受け継がれていったとも思われます。

西野々村で法灯を続ける西法寺と正楽寺との関係は不明ですが、正楽寺が松原の地に里帰りしたかのように、歴史の巡りあわせを感じずにはいられません。